

鎌倉市教科用図書採択検討委員会（第2回） 会議録

日 時 平成 26 年 7 月 15 日（火） 15：00 開会
18：30 閉会

場 所 鎌倉市生涯学習センター 第6集会室

出席者 堀委員 佐野委員 中村委員 石渡委員 西岡委員
杉並委員 伊藤委員 福頼委員 久保田委員 初見委員

事務局 川合教育指導課長 石川指導主事 露木指導主事 關根指導主事
中尾指導主事 上田指導主事 澁谷指導主事 河合指導主事
泉指導主事 多那指導主事 太田指導主事

次 第

- 1 開会
- 2 種目ごとの説明、協議等
 - (1) 調査員会の説明及び検討、協議等
 - (2) 今後の日程
- 3 閉会

委員長 鎌倉市教科用図書採択検討委員会の第2回委員会を開催する。本日の会議録署名委員を中村委員と久保田委員にお願いするがよいか。

委員 (よい)

委員長 それでは、本日の流れについて事務局から説明をお願いします。

事務局 最初に資料の確認をし、調査員の報告を種目担当指導主事が種目ごとに行う。その後、調査員の報告についての質疑を種目ごとをお願いします。質疑の後、暫時調査研究の時間をとらせていただき、調査研究の後、種目ごとに協議・研究に入らせていただく。

委員長 今事務局から説明があったが、質問はあるか。

委員 (なし)

委員長 事務局 資料の確認をお願いします。

事務局 (資料の確認)

委員長 事務局からの調査員会での内容説明の前に、本委員会で作成する報告書の総合評価について、第1回の検討委員会で確認した内容を改めて確認する。評価については3段階を基本とし総合評価の欄には星の数で表記することとする。☆1つ、☆2つ、☆3つとし、それぞれの種目ごとの☆の数は協議・検討し決めていく。☆2つは鎌倉の児童にふさわしいと検討委員会で判断した教科書。☆3つは鎌倉の児童によりふさわしいと検討委員会で判断した教科書とし、☆1つは、☆2つ、☆3つにあたらないものとする。また、種目ごとに☆3つ、☆2つ、☆1つをそれぞれいくつの発行者のものにつけるかについては、協議の中で判断していく。以上、確認する。何か評価について質問・意見はあるか。

委員 調査員の作成した資料を見せてもらった。各種目とも短期間にもかかわらず、各教科の特徴を的確に指摘している。

各教科・種目の専門の先生方が調査をし、まとめたこの資料を重視し、併せて県や学校からの調査内容も参考にして、鎌倉の児童たちにふさわしい教科書を選んでいく。従って、この資料の文言について、意見交換していく中で評価をつけていく協議の進行でどうか。

委員長 今、協議の進行について意見が出たが、どうか。

委員 (異議なし)

委員長 他に質問・意見はあるか。

委員長 なければ、報告書について、☆で評価していく形式にしたい。異議はあるか。

委員 (異議なし)

委員長 それでは、事務局に本日の資料の確認をお願いします。

事務局 本日用意した資料は、神奈川県教育委員会小学校用教科用図書調査研究の結果、平成27年度使用教科用図書採択検討委員会調査員会種目別調査資料、平成27年度使用小学校教科書編集趣意書、学校調査票のまとめ(2、3名で1冊)、以上の資料は、机上に配付してある。

また、教科書見本本、教科書展示会での市民の声のアンケートのまとめ、学習指導要領は、入り口付近のテーブルに用意してある。以上が本日の調査研究の資料となる。なお、参考として、昨年度までの「全国学力・学習状況調査」の分析結果、「かまくらっ子」の実態調査、「かまくら教育プラン」も用意した。

続いて、資料について説明する。まず、「平成27年度使用教科用図書種目別調査資料」は、調査員会の報告。後ほど担当の指導主事より詳しく説明する。

「小学校用教科用図書調査研究の結果」について、神奈川県教育委員会が作成した資料。「学校調査票」は5月21日から市内小学校16校に見本本の巡回展示し、「共通な観点」、「教科・種目別の観点」、「本校児童にふさわしいか」という3の観点で各校調査研究したものについてまとめたもの。

平成27年度使用教科用図書調査研究報告書については、今回の検討委員会で、協議した内容をもとに、報告書を作成したい。

教科書展示会については、市立中央図書館を会場に、6月18日から6月24日までの7日間一般市民を対象に、教科書各種目見本本、趣意書、採択の流れ、教科書目録、採択方針などを展示し来場者の意見をそのまま綴じたもの。なお、7日間で教科書展示会来場者29名、意見を書いた方は14名。

委員長 ここまでで質問はあるか。

委員 (なし)

委員長 それでは引き続き調査報告について説明をお願いします。

事務局 では、調査資料について説明する。5月9日開催の採択検討委員会の指示を受け調査員に「県の採択方針にある調査研究の観点に基づき、種目ごとに特徴的なことを記述する」という内容で調査することを確認した。

また、1.調査員が個人の立場でなく、種目別に調査員会として調査資料を作成する。2.種目ごとに調査員全員がすべての教科書の調査・研究にあたり、全員の総意として資料を作成する。ということで報告書をまとめた。5月23日、6月18日、26日の3回調査員会を開催し、取りまとめたものが

この資料である。それでは種目別の調査資料について、担当指導主事から説明する。

委員 調査資料を見たが、短期間でよくまとめられている。専門の先生方がまとめたこの資料を重視し、県や学校からの調査内容を参考にし、鎌倉の児童にふさわしい教科書を選ぶために、この資料を元に意見交換し、評価を決めていく協議進行でどうか。

委員長 今回の発言について何かあるか。なければそのような進め方でよいか。

委員 (なし)

委員長 では、国語の担当にお願いします。

指導主事 国語について説明する。

東京書籍

- ・1年間の学習を見通すことができるよう学年冒頭に「学習のロードマップ」のページを設け、単元冒頭に「ねらい」を明記し、その単元で付けたい力の要点を示し、単元末には「言葉の力」というコーナーで学習の重点を示している。
- ・伝統的な言語文化に関する事項では、伝統的な言語文化に親しみ、創造的に受け継ぐことをねらいに、2年生以上に「日本語のしらべ」コーナーを季節に合わせて4か所、各学年に「日本の言の葉」を2か所設定している。
- ・「読むこと」の領域の説明文では、身近に起きる事柄に目を向け、自分の考えを広げたり深めたりする教材を取り上げている。また、文章と相互に関連付けながら読みとることができるよう、写真やイラスト・図表などが使われている。
- ・他教科や日常生活に活用できるよう「ひろがる」欄や「言葉の力を活用しよう」を設けている。

学校図書

- ・「読むこと」の領域では、学び方や目標達成のための学習手順を「てびき」に示し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、単元の冒頭に学習の流れを図示して、学習の見通しを持てるようにしている。
- ・伝統的な言語文化に関する事項では、児童が興味を持って活動できるよう「声に出して読む」、「楽しむこと」をキーワードに2年生では昔話「ヤマタノオロチ」や4年生では百人一首「言葉から風景を想像しよう」が教材に取り上げられている。
- ・「読むこと」の領域では、単元に設定した目標に沿って「しっかり読んで、しっかり考える」活用する力の定着を図るとともに、言語的な知識や技能を「国語のカギ」や巻末の資料「授業で使う言葉」で、わかりやすくまとめて提示している。
- ・1年生では、就学直後の学びの意欲、また心身の発達の状態を考慮し、インデックス方式のページで構成している。

三省堂

- ・1教材1領域にねらいを焦点化し、単元のはじめとおわりに「言語活動のめあて」が明記され、学習の見通しやふりかえりができるようにしている。
- ・「伝統的な言語文化に関する事項」では、さまざまな場面で伝統文化にふれ、親し

むことができるよう、音読・暗唱を学習の中心に据えた「取り立て教材」と、各領域の学習との関連を図った「関連教材」を設けている。

- ・2年生以降の教材に「覚えておきましょう」コーナーを設け、言語に関する知識や技能の定着と他教科の学習への活用が図れるようにしている。
- ・「読むこと」の領域の説明文では、情報・環境・平和などの現代的な課題を取り上げ、書き手の考えが明確に示された文章がそろっている。たとえば、4年生では、伝統文化に関する題材「打ち上げ花火のひみつ」を掲載している。

教育出版

- ・児童が、互いの考えや意見を受け止めて結びつきを深める「学び合い」の場を、各領域の学習のさまざまな場面に設け、児童同士がお互いを認め合い、自由な発想や合意形成が生まれるよう工夫している。
- ・2年生には、よく知られた作品「いなばのしろうさぎ」や言葉遊び「『いろは』をしろう」が掲載され、児童が日常生活の中に息づく伝統文化に気づき、楽しみながら自らの言語生活を豊かにしていられるよう工夫している。
- ・「読むこと」の領域では、課題に応じた読みができるように、「何のために」読むのかを明確にし、単元の目標となる活動や、「ここが大事」のコーナーで言語に関する知識や技能を示している。
- ・読書の力を付けるため、「本を読もう」のコーナーで教材に関連した本を紹介し、2年生から4年生までは、調べ学習などで情報を活用するための読書単元「図書館へ行こう」を設けている。

光村図書

- ・児童が「何を」「どのように」学ぶのか学習の見通しをもって主体的に学ぶことができるよう、「読むこと」の領域では、手引き「学習」に読みの観点と言語活動の手順が、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、単元冒頭で「活動の流れ」を示している。
- ・「伝統的な言語文化に関する事項」では、各学年4か所に「季節の言葉」を設け、季節を感じる言葉や詩歌を取り上げている。また、古典の一節などを音読したり暗唱したりする「声に出して楽しもう」を設定している。
- ・「読むこと」の領域では、6年の教科書に「やまなし」が掲載されているように、これまで読み継がれてきた定評のある作品だけでなく、「自然に学ぶ暮らし」などのように「今」を見つめ未来につながる新しい作品を選んでいる。
- ・学習内容の理解を助け、イメージを豊かに広げる挿絵や写真が設定されている。また、展示の見本のページのように、実際に触れて参考にする資料も設けている。

委員長 質疑はあるか。

(特になし)

委員長 質疑を終了し、協議に入る。各委員から意見をもらったのちに総合評価をしていく。具体的には、☆1～3の数を協議の中で確認していく。☆は、プラスの意見が多く出たものを☆2つ、☆3つという形で進めていく。総合評価の内容は、できるだけ多くの意見を各委員から出しもらい、協議・検討する。調査報告書や県の調査研究、学校調査票のまとめなどを活用する。種目

によっては途中で調査研究の時間を取る。このような進め方でよいか。

委員 (異議なし)

委員長 事務局に確認だが、☆をつけるなかで、協議の中に出てこない☆1つのものについて、調査書の中から拾い上げ、報告書を作ることは可能か。

事務局 可能である。

委員 確認だが、進め方は☆2つになりそうなものをあげ、その中から☆3つを選ぶことでよいのか。検討委員がいいと思うものを言ってよいのか。

委員長 よい。では、協議を始める。意見をお願いします。

委員 光村図書が学習のめあてがはっきりしていて、児童にも単元の目標がマーク入りでつかみやすい。なじみの深い作品があり、使いやすい。

委員 ねらいを明示していると書かれているのは、光村図書と東京書籍。光村図書は、四季折々のものが書かれている。鎌倉にふさわしいのではと感じる。定評のある作品だけでなく、今に繋がる新しい作品があることも、鎌倉の子どもたちにとってよい。

委員 光村図書と東京書籍がよい。優れた文学作品は授業の中でも、子どもたちとの話し合いの中で、力を付けていくことができる。光村図書と東京書籍がよい作品が載せている。最近の傾向で文学作品が減り、トピック的なものが増えてきている。言葉を読み取る力を付けるには文学作品がよい。東京書籍は特に掲載されているのでよい。

委員 子どもたちがねらいを認識して勉強するものか。今からこれを学び取るんだと意識して勉強することが重要なのか。三省堂は情報・環境・平和・伝統文化など、今現在の子どもたちが知っておいてほしいことや他の教科にもかかわってくるようなものなど、読み物として情報を得たり、これを読んでどう感じるか勉強したりすることができる。また、今知っていてほしい読み物が多い。光村図書はなじみのある作品が多いが、それにこだわらなくてもよいのでは。

委員 ねらいを明記することは大切である。見通し立てて学習することは、学習指導要領の基本的な方針になっている。学習の中での見通しと振り返りを教科書をどれだけ活用できるかがポイントになってくる。伝統的な言語文化に関する事項では、中学校の古典との繋がりで、小学校でここまで扱うのはどうかと思うこともあり、古典に親しむという観点からふさわしい教材はどの会社であるのか、教科書を見てきた。その中で、光村図書は何をどのように学ぶのかを明示し見通しをもって主体的に学ぶことができる。主体的に学習

できるということは、授業だけでなく家庭学習にも活用でき、自分でも学べる材料がそろっているのではないかと思う。

委員 光村図書の6年生は、外国人から帰化した話、宇宙飛行士の話など、中学生を意識した内容があり、よいエッセンスとなっていると思う。また、5年生では、活字離れが進んでいると言われる中で、「新聞を読もう」という題材があることで、社会に目を向けさせ、興味をもたせると思う。全体的に幅広く取り扱われている。

委員 神奈川県は命の大切さに力をいれている。光村図書の総合評価の内容を見て、時代に即したもののバランスがとれている。生きることの根本的なものを大事にして6年間を、そして中学校に繋げていきたい。話すことだけでなく、聞くこと、書くことを身に付けて中学校にきてほしい。今求められているのはPISA型読解力であり、図・資料を自分なりに解釈し相手に伝える力が大事であり、確かな学力を養い、学べる教材だと言える。

委員 教科書が変わるたびに新鮮味があったり、なつかしいなと思ったりしている。説明文などはその時代にあった作品を扱う良さもあれば、物語のように何十年も読み継がれているからこそ必要な教材もある。4年生に「一つの花」という教材があるが、挿絵が時代で変わってきていると聞いたことがある。例えば、みんなで万歳をして、お父さんを見送る挿絵も教科書ごとにそれぞれ違う。どうしてこうなのだろうと子どもたちに伝えていくときに、同じものを扱うことも大切である。そのような観点から学校図書、光村図書、教育出版がよいと思う。

委員長 今まで委員の意見から整理すると、光村図書と東京書籍が多いようだが、他に意見はないか。

委員 国語の物語文では教材解釈が様々な場面で共有され、意見交換で積み上げられてきている。国語は教科の独特の特性があり、先生方が一つの教材を掘り下げてきたものがある。物語文では「海の命」、「一つの花」などと同じような時代を扱ったものがそれぞれの教科書会社があり、それぞれよい作品であるが、共有して積み上げられたものとは違いがある。光村図書が長く使われてきたのには、そのようなところを大事にしたいという意味がある。実際に教室で授業している先生方の教材への思いを考慮してもよいのではないかと思う。

委員長 これまで光村図書、東京書籍、三省堂が出ているが、光村図書を☆3つでよいか。

委員 (よい)

委員長 それでは、東京書籍、三省堂は☆2つ、光村図書を☆3つとする。

では、書写について願います。

指導主事 書写について説明する。

東京書籍

- ・姿勢や筆記用具の置き方は、写真で大きく示され、筆運びについても、とめ方は「トン」、つき方は「ピタッ」などのように、子どもたちが理解しやすいように擬音語で表現している。
- ・日常書いている文字をよりよく書くという意識を高めるために、毛筆教材では、最初に硬筆の設問に答える「調べよう」で基礎・基本を発見させ、教材のねらいを共有してから授業を進められるように工夫している。
- ・毛筆教材では、主体的に学習する力を育てるため、左端にインデックスを示すことで、学習内容や既習事項を確認することができるようにしている。
- ・学習したことの定着が図ることができるよう、教科書紙面を横の長さをA4版にすることで書き込み欄を増やし、練習帳の機能をもたせている。

学校図書

- ・「しよしゃ学習のし方」や「毛筆学習の進め方」では、具体的にどのように学習したり、練習したりしていくとよいのかが、児童にわかりやすく示されている。
- ・毛筆の手本は見開き2ページを使って、半紙の大きさで、しんじょうや結び等のむずかしい筆づかいについて、筆先の連続写真を掲載している。
- ・中学年では、硬筆だけで一単元構成され、3年では縦書きのノートの取り方や原稿用紙の書き方、4年では封筒の宛名や原稿用紙の書き方などを取り上げ、他教科や日常生活との関連を図っている。
- ・「資料」では、メモの取り方や新聞の書き方、墨や和紙のできるまでを取り上げ、実用場面を意識した事例が掲載されている。

三省堂

- ・毛筆の穂先の向きをわかりやすくするため、「穂先の向きは十時半」など、時計を使って示している。また、基本点画の書き方について、朱墨と薄墨を使って運筆や穂先の動きなどの筆使いをわかりやすく示している。
- ・「書く→わかる→書いて確かめる→振り返る」という学びの手順が示され、4年生の毛筆教材では「左にあった穂先を上へ」など、学習のポイントを簡潔な言葉で表現するなど、自ら学ぶ力が身に付くよう工夫している。
- ・6年生では、巻末に資料「書写学習のヒント」を設定し、書写の技能を整理して示すことで、学習を振り返ったり、学習する中で確かめたりして理解を深めることができるよう工夫されている。
- ・各学年の「ひろげよう」のページでは、レポート用紙やポスター等の書字場面を取り上げた教材が設けられ、他教科や日常生活との関連を図っている。

教育出版

- ・裏表紙には、鉛筆や筆の持ち方等の写真が示され、いつでも確認ができるようにしている。
- ・朱墨と薄墨を使った図版を拡充して、「穂先の通り道」がわかりやすいようにしている。また、筆使いの基礎・基本の定着を図るため、運筆が朱墨の濃淡で示されている。

- ・各学年の硬筆教材は、国語との関連を考え、1年生では「おおきなかぶ」4年生では「ごんぎつね」5年生では「竹取物語」など、国語の教科書から取り上げている。
- ・3年生で、はがきの書き方、5年生で、ポスターの書き方等について、場面に応じて書き方のポイントが解説され、「横書き」については、各学年で取り上げられ、他教科や日常生活で使えるよう取り上げられている。

光村図書

- ・4年生以上の巻頭にある「学習の進め方」では、児童が見通しをもって主体的に学習に臨めるよう1時間の学習の流れが示されている。
- ・各学年の巻頭に、図や写真を活用して姿勢や筆記用具の持ち方が確認できるようにしている。低学年では、オリジナルの唱え歌も掲載している。
- ・「とめ」「はね」「はらい」「おれ」などの基本の筆運びが指でなぞりやすいように大きく表示され、穂先の動きが朱墨で示されるなど、わかりやすく工夫されている。
- ・身に付けた力を日常生活に生かす橋渡しとして、各学年の巻末に「しりょう」を設定している。5年生では、はがきの表書き・原稿用紙の使い方、新聞の書き方の工夫が取り上げられている。

日本文教出版

- ・各学年の主教材は「①考える→②確かめる→③いかす」の3つのステップを踏みながら、段階的に学習できるように工夫している。また、5、6年生では、単元に入る前に学習の進め方を示している。
- ・姿勢や用具等の取扱が写真とコメントで説明されている。特に低学年では、書写の基礎・基本である姿勢・持ち方のページを増やし、写真を大きくしたり、ポイントを明示したりしている。
- ・「もっと書こう」のコーナーでは、国語科における3領域の言語活動例を具体化し、様々な学習のプロセスの中で、身に付けた力を活用できる教材になっている。
- ・「広がる学び」のコーナーでは、他教科や日常生活につながる実用的な書式がそれぞれの学年の発達の段階に応じて「絵日記」（1年）「学級新聞」（4年）「卒業作品」（6年）などの教材が設けられている。

委員長 では、質疑はあるか。なければ協議に入ってもよいか。

（よい）

委員長 では、意見をお願いします。

委 員 授業のときに東京書籍のサイズは机上が狭くなる。硬筆と毛筆では、字形とバランスを考えるとときに中心線が大切であり、光村図書と日本文教出版がわかりやすい。文字数をバランスよく配置し、「とめ、はね、はらい」をていねいにおさえているのは光村図書と日本文教出版である。

委 員 低学年は文字指導に時間がかかるので、書く文字数（量）が多いと児童も負担になる。その理由からも光村図書が適当である。練習量も光村図書がちょうどよい。

委員 3年生から書写が入ってくる。導入では、光村図書の項目ごとの構成がわかりやすい。

委員 光村図書の裏表紙の「もっと知りたい」の内容が県の資料（伝統文化）と合致し、子どもにもインパクトがある。推薦したい。

委員 違いがあまりわからなかった。量があまり多くないことと、国語と連動させた方がよい。

委員 硬筆の部分は国語の教科書の本文が使われる。書写で初めて習う文字は「一、二、三」。その次に「土」が3者、「下」が2者、「十」が1者。4点の間隔の取り方を育てるのには、「土」が良い。これは伝統的な毛筆の考え方に則っている。教育出版、日本文教出版、光村図書があげられる。

委員 一マスが4つの部屋の中でバランスを取るようになっている。毛筆も硬筆も同じ。光村図書、三省堂に載っている。硬筆と毛筆の持ち方が違う。光村は姿勢から始まり、穂先の向きや、力の入れ加減など、細かく書かれている。イラスト入りでわかりやすい。自宅で保護者が書初めの指導ができる。

委員 3年生にとって中心をとることは大事。それと同じくらい全面に字があることも大事。半紙と同じサイズで字が書いてある方がよい。

委員長 これまでの意見をまとめると、教育出版、日本文教出版が☆2つ、光村図書が☆3つでよいか。

委員 (よい)

委員長 それでは、ここで休憩をとり、次は社会から始める。

(休憩)

委員長 再開する。社会についてお願いします。

指導主事 社会について説明する。

東京書籍

- ・問題解決の流れがわかるよう見開きにし、学習の流れが「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という構成になっている。単元の「めあて」、小単元の「学習問題」、本時の「めあて」を示し、問題意識を持って学習が進められるようになっている。
- ・内容に関しては、単元をまとめるページに、自分の考えを整理して表現するための手掛かりが示され、多様な言語活動が掲載されている。また、単元によっては、自

らの考えを記述することのできる欄が設けられている。

- ・本文中のキーワードは、欄外に「ことば」のコーナーとして取り上げられ、説明が記載されており、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために活用できるよう工夫されている。また、まとめる場面には、その小単元の「ことば」で扱ったキーワードの一覧があり、そのキーワードを活用した活動が記載されている。
- ・写真、イラストが見やすい大きさと豊富に扱われており、資料には、見開きごとに通し番号が付いているので、指導者が指示しやすくなっている。

教育出版

- ・学習を「つかむ、調べる、まとめる、深める」という流れで構成しており、各学年の最初の単元で、問題を解決していく過程の見通しや学び方を、わかりやすく示している。
- ・内容に関しては、神奈川県資料が多く、身近な資料で学習することができる。
- ・小單元ごとの「まとめる」では、基礎的・基本的な知識を整理するために、キーワードに注目してワーク形式で書き込む欄を設けたり、考えたことなどを自分の言葉で表現する項目を設けたりしている。また、3、4年生上巻巻末には、「わくわく社会科ガイド」があり、社会科の学び方の基礎・基本についてガイドする特設ページが設けられている。
- ・写真、イラストが見やすい大きさと豊富に扱われており、資料には、見開きごとに記号が付いているので、指導者が指示しやすくなっている。

光村図書

- ・ホップ（見つける）、ステップ（調べる・話し合う）、ジャンプ（まとめる・ひろげる）という言葉を使って、学習の道筋を段階的に示し、主体的に学ぶことができる構成になっている。また、5、6年生の教科書は学習内容を比較したり関連付けたりできるよう、1巻構成になっている。
- ・内容に関しては、神奈川県資料が多く、身近な資料で学習ができる。また、各単元のはじめに、そこでの学習内容を示唆する投げかけと写真・イラスト・資料など掲載し、児童の興味・関心や学習意欲を引き出すとともに、学習の見通しが持てるように配慮されている。
- ・各単元のジャンプ（まとめ）では、単に知識を取り上げるだけでなく、「県じまんかるた」をつくるなど、児童が楽しんで学習に取り組めるような多様な言語活動の例が取り上げられている。
- ・写真やイラストは、余白を生かして見やすい配置になるよう配慮されている。

日本文教出版

- ・小單元ごとに「ふりかえってみよう」という学習のまとめがあり、大單元ごとに「大きくジャンプ」という発展学習がある構成になっており、児童が主体的に学習できるよう工夫されている。
- ・内容に関しては、「学び方・調べ方コーナー」で、資料の注目する点を示したり、資料同士を関連付けたり、比較したりして、調べ学習につなげ、主体的な学習ができるように工夫されている。
- ・説明的な記述が多く、教科書を読めば、学習する内容がわかるように工夫されている。また、資料の活用や学習活動を促すために、「考えるヒント」や「やってみよう」といったコーナーが記載されている。
- ・本文中の重要な言葉が太字になっており、さらに欄外にその説明の文章を記載する

という工夫がされている。特にその単元を学ぶうえで不可欠な社会科用語は「キーワード」としても記載されている。

委員長 質疑・協議を同時に行っていく。何かあるか。

委員 東京書籍、教育出版、光村図書は学習の流れがはっきりしている。光村図書と教育出版は神奈川の資料が豊富。光村図書は写真やイラストがあまりよくない。教育出版、東京書籍がより優れている。東京書籍は中学校の教科書のように1単位時間が見開きで構成されていて、中学校への繋がりという点でもよい。

委員 東京書籍と教育出版がよい。共通するのはつかんで、調べて、まとめるというところ。東京書籍は活かす、教育出版は深める。習得したことをいかに活用するかが大切。教育出版は、持続可能な社会の視点が、身近なところから地球環境にまで広がっていることは教科を越えて大事な視点。その視点が明日を担う人材作りによい。わくわく社会科ガイドを含め、発展性のあるものがよい。

委員 社会科の資料としては、いろいろな答えが隠されているものがよい。例えば6年生の織田信長・家康連合軍と武田勝頼が戦った、長篠の戦いの絵図は、どの教科書にも示されているが、光村図書は説明しすぎて答えが書かれている。答えが少ないのは、日本文教出版、東京書籍。教育出版は答えが書かれていない。子どもたちに考えさせるという点では、教育出版は説明し過ぎていない事が評価できる。

委員 教育出版か東京書籍がよい。副読本（わたしたちの神奈川県）の中でも勉強するので、神奈川の資料は詳しくなくてもよい。資料としてよいのは、東京書籍。資料の豊富さがよい。写真で学習が深められる。

委員 教育出版がよい。横浜や舞岡などが取り上げられており、身近な資料で学習できる。平和に関することにページをさいている。東京書籍は訂正の差込みが入っていたが、韓国、中国が日本の領土を不法に占拠しているという一文しかなく、その経緯がないので、余計な憶測をもたせてしまうように思える。

委員 訂正文の書き方には違和感がある。

委員 東京書籍は鎌倉時代について、戦いだけではなく、社会との結びつきについてもいろいろなアプローチで掲載している。防災教育についてもよくまとまっている。

委員長 それでは、東京書籍、教育出版を☆2つとし、次回細かく検討する。

委員 ☆3つが2者としてもよいのか。

委員長 よい。それでは、地図に進む。説明をお願いします。

指導主事 地図について説明する。

東京書籍

- ・ A4版で大きく、見やすいという特徴がある。書体や色使いなど、誰もが見やすくわかりやすい配慮が多用されており、色調もやさしく紙面が光らないような工夫がされている。使用頻度の高い索引については、文字を大きくするとともに行間を開けてあるので、読み取りやすくなっている。また、見やすいだけでなく、児童が書き込みしやすい紙質のものが使用されている。
- ・ 内容に関しては、巻頭に文字のない日本列島全図が3ページにわたって掲載され、島々の連なりや海底地形の様子が実感できるよう示されており、児童の興味・関心をひくよう工夫されている。
- ・ 特設ページとして「日本の自然災害」が掲載されており、東日本大震災をはじめ、様々な自然災害の様子を示している。
日本列島の地形図に南海トラフや相模トラフなどについても記載され、地震など被害の発生した年月や場所についても分かりやすく説明している。

帝国書院

- ・ AB版を採用しており、教科書と同じサイズになっている。折込ページの折り目部分の表面は、コーティングして補強されており、長期間(3年間)の使用にも耐えられるよう工夫されている。また、全ての児童が学びやすいような配慮をした色彩表現の工夫がされており、文字は、「とめ」「はね」「はらい」が、国語で学ぶ書体を使用している。
- ・ 内容に関しては、学習内容に関連した地域の産業や町の様子の詳細図が、地方ごとのページにわかりやすく掲載されており、地域の人々のくらしや風土がわかる工夫がされている。
- ・ 巻末では防災への意識を高めるため、プレート位置や地震の分布など具体的に示している。また、児童が住む地域の防災マップを作成する活動に取り組めるよう、防災マップを例示し、作成のプロセスや留意点が示されている。

委員長 では、質疑・協議をお願いします。

委員 サイズが大きいほうが見やすいが、使いにくいと思われる。色合いと字の感じは、比べて甲乙つけがたい。コーティングについてもどちらも工夫されている。非常に難しい。

委員 地図帳は机から出し入れし、教科書と合わせて使うなど、大きさは使い勝手が良いほうがよい。その視点から帝国書院のものがよい。

委員 巻末に災害のことなどもあるが、東京書籍は過去の地震についての情報を示し、帝国書院は防災マップ作成のための資料を掲載している。行動に移せ

る資料は、活用しやすい。鎌倉市も防災に力をいれなければいけない状況なので、子どもが地域を動かし、大人を動かすということにつながる資料があるのはよい。

委員 防災マップは本当に必要で、自分たちで作るときに役立つ。しかも帝国書院の色の方が見やすい。

委員長 サイズと防災マップの点で、帝国書院がふさわしいということでよいか。他にないか。

委員 帝国書院は地域の産業・くらしなどの資料があってよい。国旗も東京書籍は巻末にまとめてあるが、地域ごとの方がよい。

委員 帝国書院の世界地図の国別の色分けが学習しやすい。

委員長 帝国書院が☆3つでよいか。

委員 (よい)

委員長 次の算数をお願いします。

指導主事 算数について説明する。

東京書籍

- ・「ふりかえりコーナー」(3年)「ほじゅうのもんだい」(3年)で基礎的、基本的な知識、技能の定着を図ることに加えて、教科書の使い方を解説した「新しい算数を使って学習しよう」(6年)を設けて家庭学習を促している。
- ・算数的活動が系統的、効果的に指導できるように教材、場面が構成されている。
- ・「考えよう伝えよう」のコーナーでは、式や図などの数学的な表現を用いて、算数科の特性を生かした言語活動例として示し、また、「話し合い活動」を取り入れ、他者の考えを読み取って説明することができるよう工夫されている。
- ・「算数のおはなし」というコーナーでは、他教科と関連している資料や題材を多く取り上げ、算数と日常生活とを結ぶ内容により算数の必要性を実感することができる構成となっている。

大日本図書

- ・「算数たまたまばこ」「もっと算数たまたまばこ」「考えましょう」など数学的な思考力、表現力が身に付くように、課題解決型の展開が一層図れるようにしている。また、表やグラフなどを見て気付いたことを話し合えるような設定もされており、言語活動の充実が図れるようになっている。
- ・単元内にある「ふりかえろう」のコーナーでは学習内容や考え方が定着できるよう工夫されている。また、巻末にある「チェックアンドトライ」「レッツトライ」では、学習内容の復習と発達の段階に応じたスパイラルによる学習活動が配列されている。

- ・全学年で上巻・下巻を1冊にまとめられていることで、見通しを立てて学習をしていくことや内容の系統性などがわかるように配置されている。
- ・直接、教科書に書き込めるスペースが多く配置されており、自分の考えなどを式や言葉で表現していくことが容易になっている。

学校図書

- ・「算数たんけんたい」のページでは、鎌倉駅時計台が掲載されているなど身近に存在する算数的な事象や教材をカラー写真で紹介し、算数への興味を深めるとともに算数の有用性に気付かせる題材が扱われている。
- ・「活動」マークが付けられた箇所では、算数的活動を含む練習問題などが多く設定されている。さらに、重要な問題場面ではページ右側に側注欄を設け、算数的活動を進めるためのヒントとなる設問となっている。また、「ことばのコラム」では、言語活動の充実という視点から文型や算数用語の解説をわかりやすく行っている。
- ・各単元末には、「練習」「力だめし」「問題が解けたらチェックしましょう」という構成で、基礎的、基本的な知識、技能の定着を図るため、発達の段階に応じたスパイラルによる学習活動とともに、学習内容の理解や自己評価欄を活かした振り返りができるようになっている。
- ・6年生別冊の「中学校へのかけ橋」では、中学校で扱う初歩的な内容に触れさせ数学への興味・関心が持てる工夫をしている。

教育出版

- ・作業的・体験的活動や具体物を用いた活動を通して、「はてな？」で疑問を見付け、考えたり説明したりする活動で「なるほど！」と実感できることなど、算数的活動を通した問題解決型の授業が展開しやすくなっている。
- ・横浜市の地図を扱い、区ごとのおよその面積を求めるなど、身近な題材を取り上げることで興味・関心を持ち、学習意欲を高めることができる内容となっている。
- ・数直線を使って、式の根拠を考えたり、計算の仕方を説明したりする活動がある。また、いくつかの計算方法など課題を設定し、言語活動の充実を図ることで学習のねらいにせまる内容となっている。
- ・ページ折込で単元を隠すことでその単元の興味をそそるように構成されている。また、大きな図や表を用いたりするのに、必要な大きさを確保している。

啓林館

- ・「学びをいかそう」では、これまでに学習したことを生かして主体的に学習ができる題材が設定されている。備蓄計画については、災害時における必要な備蓄量にせまるなど、算数的活動を通して実生活への結びつきを大切にしている。
- ・「たしかめましょう」や「復習」で基礎的、基本的な知識、技能の定着を図ることとともに、巻末に「発見算数島」を設け、発達の段階に応じたスパイラルによる学習活動は適切に配列されている。
- ・言語活動の充実を図る中で、学んだことを生かして説明する学習がある。また、その根拠にも言及するような設定がなされていることから、筋道を立てて物事を解決していくことができるようになっている。
- ・他教科とのつながりのある題材があり、学習意欲が高まるよう工夫されている。例えば「あさがお」の栽培(生活科)、「折れ線グラフ」等。

日本文教出版

- ・「次の学習のために」「確かめポイント」「じっくりチェック」などで、スパイラ

ルによる学習活動が設けられ基礎的、基本的な知識、技能の定着を確認し次の学習活動にスムーズに進めるように配慮されている。

- ・「いち・に・算活」では、算数的活動として、作業的・体験的な活動を取り入れ、活動内容をより具体的に示し、日常生活の場面にも活かせる活動を充実させている。
- ・「どうしてがいえるかな」を設け、考え方を数、式、図、数直線などを用いて理由や方法などを説明する問題を取り扱い、言語活動の充実を図っている。
- ・判型はA B版であり、側注を設けることで学習がスムーズに進められるような配慮がされている。問題を解く際の既習事項の振り返りや、考え直しをすることで学習の定着が促がせるようになっている。

委員長 質疑・協議をお願いします。

委員 中学校へのつながりについて、東京書籍と学校図書について。学校図書は「中学校へのかけ橋」がよい。「かまくらっ子」の中で家庭学習しない子が増えているとあり、東京書籍の家庭学習を促すところがよい。

委員 四則計算で分数の掛け算、割り算がむずかしい。学校図書の面積図として示し、量として捉える導入がわかりやすい。

委員 分数は学校図書がよい。質問だが、「中学校へのかけ橋」はどのような構成、内容となっているか。

指導主事 「かけ橋」は2部構成。中学校でも使われていく。抽象的な□○△が文字になり、作図になる。ピックアップしたものが、まとまっている。

委員 小学校を卒業すると、開放感から中学校に入学するまでに力が抜けてしまう子どもがいる。小学校の内容を復習することもあるので、中学校に入学する前の短期間に「かけ橋」の部分をやってほしい。日常の中に算数があることを気付かせると算数嫌いにならない。教育出版、東京書籍はそういう題材を扱っている。

委員長 今までの内容で東京書籍、教育出版、学校図書を☆2つとし、次回検討することでよいか。

委員 (よい)

委員長 理科をお願いします。

指導主事 理科について説明する。

東京書籍

- ・問題解決の過程を8つのステップに分け、「問題をつかもう」から「まとめ」までのステップのタイトルを緑色のラインで結び、大きな文字で示してまとまりを見やすくしており、児童にとって学習の流れがわかりやすくなっている。

- ・観察や実験の結果をグラフや表に整理し、クラス全体の結果としてまとめるようになっているので、児童が活発な言語活動を通して主体的に考察し問題解決しやすくなっている。
- ・巻末の「資料～理科の調べ方を身につけよう」では、基礎的な内容がすぐに確認できるので、必要な場面で繰り返し確認しながら、定着を図り、スムーズにかつ安全に観察実験が行えるようになっている。
- ・観察や実験を行うきっかけになるように写真やイラストが適所に掲載されているため、問題解決への見通しが立てやすくなっている。

大日本図書。

- ・教科書の観察や実験のページには、児童が観察、実験でつまずきそうなところやこつなどを必要に応じて示すことで、安全かつスムーズに活動することができるよう「ポイント」、「注意」マークが示されている。
- ・資料「りかのたまてばこ」や単元末の「学んだことを生かそう」では、学習した内容を日常生活に関連付け、学習した内容をより深く理解したり、共感したりして児童の理科に対する興味・関心が高まるよう工夫されている。
- ・単元ごとに発展的な資料である「ジャンプ」や巻末に「〇〇年生になったら」、「中学生になったら」などを載せ、自分が学習した単元がこの後どのように発展していくのかを知ることができたり、中学校理科の内容などが示されているので内容の系統性が理解しやすかったりと、学年・校種間の接続を滑らかにする工夫をしている。
- ・植物や昆虫、星座シート等の付録が見開きで付いており、観察を行いやすく、野外で活動を行う際には、水や摩擦、土の汚れなどにも対応し、厚い紙にコーティングを施すなどの工夫がされている。

学校図書

- ・写真や図版は、鮮明で、豊富です。そして、レイアウトについても資料性を高めるための工夫がされている。
- ・問題からまとめまでの一連の問題解決の流れを、紙面両サイドバーに示すことで、児童にとって学習の課題が常に明確になるよう工夫されている。
- ・学年で栽培する植物を教科書の初めのページに掲載し、見通しを持って学習することができるようにしている。年度初めに何を育てるのかを知ること、どのような理由で育てるのかが明確になり、植物を大切に育てようとする気持ちを育むように工夫がされている。
- ・生活経験から入る導入や生活経験を想起させる場面、理科が仕事や生活と関連する事象をコラムとして取り上げており、児童が理科を学ぶ意義がとらえられるようにしている。

教育出版

- ・キャラクターのナビゲートによって「はてな？」から「調べよう」「わかった」まで、問題解決するための学習の流れが児童にわかりやすく提示されており、科学的な思考力を身に付けるための工夫がされている。
- ・観察の際に資料となるミニ図鑑は、検索しやすく、質・量ともに充実した構成となっている。特に、3年生の巻末にある生き物ミニ図鑑は、種数が豊富で、記載の仕方が、植物では色別、こん虫では、チョウ、トンボ、バッタ、カブトムシ、バッタ・カマキリのなかまで区別されていて、児童が自ら検索しやすく示されている。
- ・各学年の巻頭・巻末には、学習内容に関連のある専門家からのメッセージが掲載さ

れており、児童が、理科の学習に興味・関心を持ち、学びの価値を理解できるよう工夫されている。

- ・防災教育に関する資料が、「流水の働き」（5年）、「大地のつくりと変化」（6年）では、それぞれの単元末に、小単元として、「川の災害」（5年）、「地しんや火山と災害」（6年）という単元として設定しており、わたしたちの生活と自然とのつながりを豊富な写真と資料を用いて、防災・減災に対する意識が高まるよう工夫されている。

啓林館

- ・教科書に「わくわく理科プラス」が別冊としてついており、児童が自分の考えを示す場面を数多く設けて、主体的に観察・実験に取り組めるよう工夫がされている。「思い出してみよう」「考えてみよう」など、自ら問題を見だしやすい問いかけがあり、それに対して既習事項や日常経験の確認や導入活動や資料写真を使用し、問題の発見や観察・実験へ向けた言語活動を行うことができるようになっている。
- ・単元末の「たしかめよう」や「力だめし」などでは繰り返し学習が設定されており、知識・技能の定着を図る工夫がされている。
- ・観察記録や単元末の「まとめよう」においてノートの記入例が豊富に示されており、「自分の予想を書いておこう」や「図などを使って分かりやすく記録しよう」などノートを記入する際のアドバイスが書かれている。
- ・教科書の巻末の資料は充実しており、3年生の「たんけんカード」では、身近な昆虫のたまご、幼虫、さなぎ、成虫が示され、植物では似ている植物が区別できるように特徴のある部分を拡大してあり、観察の約束も示しているので校外での観察に活用できる。また、5、6年生の「地域資料集」は、現地学習が難しい地学領域を中心に、資料が豊富である。

委員長 質疑・協議をお願いします。

委員 学校図書は単元の最初にどのような流れで学習するか課題が提示されていて、わかりやすい。写真もきれい。

委員 大日本図書の各学年や中学へのつながりがよい。学校図書は見やすく、写真がきれい。学習課題があるものよい。

委員 大日本図書・学校図書は高学年は中学校に近い。実験がやりやすい。写真は啓林館がきれい。興味がわくように作られている。

委員長 理科を専門とする立場から、啓林館の写真は子どもたちが興味のわくものが多い。紙質もよい。その分重くなっているが。

委員 東京書籍には、5年生 実験・観察のノウハウを身に付けるために「つかもう」「まとめ」などステップが表示されていてよいが、教科書に内容が書きすぎていて、子どもたちに結論が見えてしまう。学校図書は控えめな書き方で、考えさせるようにできているところがよい。

委員 大日本には、興味を引く写真がよい。

委員長 意見をまとめると、大日本図書、学校図書を候補としてよいか。

委員 (よい)

委員長 では、大日本図書、学校図書をあげる。次の生活を願います。

指導主事 生活について説明する。

東京書籍

- ・効果的に写真やイラストを使って具体的な活動例を多く示し、児童の気付きを自然と促すだけでなく、気付きの質を高めるための教師の指導や支援や指導の例が多く示している。例えば、背景に1cmの目盛をつけ、植物が実物大で示しているので児童の興味関心をさらに引き出す助けとなるような構成の工夫があげられる。
- ・活動や体験からうまれる児童の気づきを表現する方法も多数例示していて、他教科とも関連して学習しやすい内容となっている。
- ・巻末の「べんりてちょう」では、人との関わり方、マナー、表現方法など、活動に即した習慣や技能の習得を整理してあり、児童が低学年のうちに身に付けて欲しい基礎的、基本的な生活習慣や表現方法についても項目ごとに整理し、イラストやマークを使って学びやすいように配慮している。

大日本図書

- ・全体に写真が大きく児童の視線で撮影されていて、活動意欲がかき立てられる紙面構成になっていることがあります。半透明のシートを重ねて見たりして、児童の関心を高めるような視覚的工夫がされている。ページ右上の葉の色が季節により変化をすることで児童が自然と季節の変化に気付く工夫がされている。
- ・コラム「せいかつのことば」では「雨の降り方」表す言葉をあげ、児童が自然に語彙力・表現力を高め、言語文化の理解を促せるような工夫がされている。伝え合いや話し合いの場面も例示も多く、言語活動の育成のための工夫がなされている。
- ・単元内の資料「がくしゅうのどうぐばこ」は、地域・学校・児童の実情に応じ会話や活動が広がる工夫がされている。

学校図書

- ・一つの単元を通して、学び方をつかみやすいステップで構成されていて、児童が自ら課題を見つけ、自分自身で解決していく力を身に付けられるように工夫されている。
- ・児童の興味を引くような、写真やイラストで指示的な言葉を避け児童が自分自身の気づきを促す工夫があり、カードの例も大きく見やすく例示されていて、児童が気づきをどのように表現したらよいか分かりやすいようになっている。
- ・友だちや地域の方など様々な人と交流で繰り返し関わるような場面を設定することで、相手を理解し、尊重するような豊かな心が育つよう配慮されている。大単元の終了後、巻末に「きみならどうする」にジャンプする構成となっており、生活科の授業で身に付けたことを日常生活に関連付けようと促す工夫がされている。

教育出版

- ・「○○かな？」という疑問形で単元を導入し、児童が「なぜだろう？」、「やってみよう」等の児童の思考を促し、児童が自然と学習意欲を高め、学びを始めていくための動機づけができるように工夫されている。観察記録カードなど、カード例が大きく見やすく掲載されている。また、カードの下には「気付き」を評価するようなコメントが述べられており、児童の気付きをさらに助けるような学習のヒントや注意事項が記されている。さらに「はっけんのひんと」では学習が深められるように「気付き」のポイントを分かりやすく記述している。さらに発見したことや感じたことを、伝え合い、学び合い、交流しながらさらに深い学びへと発展することができるよう、「伝え合い」の活動や「自己評価」のコーナーが設定され、自己の活動の振り返りができるようになっている。

光村図書

- ・各単元が「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階で構成されており、児童の思いや思考の流れを大切にし、活動が活発になるよう工夫されている。また、全ての単元に「どうすればいいかな」のコーナーがあり、視点や活動を広げるヒントを示し、さらに「？」を置くことで自ら考えることの楽しさを実感しやすい工夫がある。
- ・下巻「あそんでためしてくふうして」では、身近にある空き容器を再利用してゲームや楽器を作る活動例などが取り上げられ色々な方法で、様々な活動を行うことで、自然と資源を大切にしようという意識を育てようとしている。
- ・掲載されている写真は、子どもの視線を意識しており、自然の中で遊び、発見する子どもたちの姿を撮影されている。

啓林館

- ・「わくわく」、「いきいき」、「つたえあおう」、「ちゃれんじ」の4段階の紙面構成「関心をもつ、気づく、わかる、考える、深める」と自然と単元を通して活動が深められるような工夫がある。自分の成長に気づけるよう、幼児との交流が例示されている。また、他教科や上学年とのつながりを意識し学びの素地が育てられるよう工夫されている。
- ・活動を進める上での安全面や衛生面での注意を囲みやマークを使って子どもたちが自然と注目できるような配慮がある。
- ・別冊「せいかつめいじんブック」は、活動に役立つ資料として、教室だけでなく野外や家庭でも活用できる扱いとしている。また、家庭においても生活科を意識して、子どもの成長を見守れるよう上下巻の裏表紙に「保護者へのメッセージ」がある。

日本文教出版

- ・小單元ごとに活動のねらいを示すタイトルや課題（ねらい）を明確に示すことで、児童が主体的に活動のポイントに気づくことができるような工夫がされている。
- ・「夏休み」の前後を具体的な課題を小單元化にすることで計画的に夏を過ごしながら課題を通して、「こんなことしたよ」と自ら伝えたいと思うような必然性のある伝え合いを促すような配慮がされている。
- ・様々な形式のカードが提示され、児童の「気付き」へのコメントも載せていて、さらに気付きの質を高めるような工夫がされている。その手法としてウェビング法やKJ法などの思考ツールの例示もされ、発想の手助けをしている。
- ・表紙の表裏に点字や凹凸を付け、自然に福祉に対して関心が向けられるように工夫されている。

委員長 質疑・協議をお願いします。

委員 啓林館はさつまいもがどのようにできるのか予想するところ、探検ブックを持ち歩いて活用できるところがよい。

委員 東京書籍は紙質もよく、おもちゃのところが使いやすい。

委員 学校図書は写真やイラストが多く、担任が子どもたちの環境に合わせ授業がしやすいのでは。東京書籍のポケット図鑑がとても面白い。

委員 大日本図書は発見カードが多すぎて、子どもたちの思考がこの情報に誘導される可能性があるのではないかと。

委員 先ほどの意見と同じで、学校図書は子どもの言葉での表現、子どもが自由な発想で、子どもが発見した展開が出てきそう。活用の幅が広がる。

委員 大日本図書の透明シートも様々な活動の広がりがある。

委員長 それでは東京書籍、大日本図書、学校図書、を☆2つとすることでよいかと。

委員 (よい)

委員長 音楽をお願いします

指導主事 音楽について説明する。

教育出版

- ・目次では、題材ごとにタイトル帯が色分けされており、系統性が一目でわかるようになっている。たとえば、各学年の水色のタイトルはわが国の音楽や諸外国の音楽、黄緑は楽曲の特徴をとらえての表現・鑑賞といったようになっている。
- ・紙面の工夫では、両開きや透明シートのページがあり、迫力ある写真や親しみやすいイラストなどで児童が想像力を膨らませながら学習できるようになっている。
- ・鑑賞教材では多様な音楽形態が掲載されているほか、中学校とのつながりを意識した曲が教材として取り上げられている。例として6年生のジャズとクラシックの融合である「ラプソディインブルー」や、中学校でも扱う「運命」が小学生にわかりやすい内容にアレンジされて取り上げられている。
- ・器楽教材では5年生に児童が耳なじんだ曲が掲載されており、興味関心をもって取り組めるようになっている。また、児童が各自の段階に応じてパートを選んで合奏に参加できるため、達成感を得やすいような曲が掲載されている。

教育芸術社

- ・各題材のまとまりの始めのページに色の帯で学習のまとまりや見通しがわかりやすく示されている。例として、5年生ではページ左にオレンジ色で「曲想を味わおう」とあるもの。「新しく覚えること」として、枠で囲んで意識しやすくなっている。

- ・太字で大きく学習内容が「曲想の移り変わりを感じ取りながらききましょう。」と示されており、「威風堂々」が取り上げられているが、ねらいに即した選曲となっており、児童にわかりやすく学習できるものとなっている。
- ・1年生では、「タンブリン」と「けんぼんハーモニカ」について、児童にありがちな誤った扱い方を例示しており、正しい扱い方がわかりやすい内容となっている。また、打楽器を加えての合奏譜が掲載されており、1年生から簡単な合奏に取り組めるようになっている。
- ・目次では、全学年に共通教材「こころのうた」と長く歌いついでいきたい歌として「歌いつごう日本の歌」コーナーがあり、童謡や唱歌が数多く取り上げられている。5年生では、特に、「こころのうた」にはコラムが必ず掲載されており、それぞれの歌に関心や親しみをもつことができるようになっている。

委員長 質疑・協議をお願いします。

委員 教育芸術社がよい。1年生はリズム遊びから入っており、一番最初が体を動かして友達と歌を歌いながら仲良くなろうなどが入っている。また、鍵盤ハーモニカはタンギングの指導が難しいが、息の使い方など子どもがわかりやすい表示になっている。

委員 限られた時間数ではやや内容が多いと感じるが、教育出版はいろいろな曲があり、面白そうである。教育芸術社は曲数が適切で、昔からある曲と今どきの曲があってよい。

委員 教育芸術社は鍵盤ハーモニカ同様、リコーダーの音の出し方の表示がわかりやすい。また、目次に曲の味わい方が示されており、子どもたちがどういったことに気を付けて歌ったり鑑賞したり取り組めばよいかわかる。

委員 小学校は中・高学年は専科の先生が指導することが多く、低学年は担任が指導することが多い。教育出版は幅広く歌を扱っているが、教育芸術社は昔からなじみのある歌が多くあるので担任も扱いやすい。

委員 合唱コンクールをやっている中学校は多いが、その意味では合唱の指導についてよい内容が掲載されているので教育芸術社がよい。

委員長 教育芸術社を☆3つということでよいか。

委員 (よい)

委員長 図画工作をお願いします。

指導主事 図画工作について説明する。

開隆堂

- ・各題材名の上には、その題材で一番大切にしたいことを目標として、マークとともに具体的な文章で示している。また、右下には、「ふりかえてみよう」「ふりかえてはなしあってみよう」マークで示された児童の自己評価や振り返りの観点が問いかけの形で示されており、言語活動を充実させながら学びを確認することができる。
- ・各題材名のデザインやその下の主文の表現は、児童にとって活動のイメージがしやすく、「あっ！いいことかんがえた」や「考えを広げて」マークで示された具体例や、工夫がわかる大きな写真は発想のヒントになり、児童の表現の意欲を高める。
- ・巻末ページには、発達の段階に応じて基礎・基本的な資料となる「パレットコーナー」や「道具箱」があり、表現のために必要な技法や知識を習得し、自主的な活動を促すことができる。
- ・作家作品を折り込みページに大きく掲載した「小さな美術館」や日本各地の伝統文化を取り上げた「みんなのギャラリー」の他にも、お互いの作品を鑑賞する場面が随所に設定されており、表現活動と鑑賞活動の一体化が図られている。

日本文教出版

- ・各題材名の右隣には4つの「学習のめあて」が示され、重点化してほしい観点には下線が引いてある。造形遊びでは、学校や学級の実態に合わせて活動できるよう、同一題材で屋外・屋内の活動が紹介されている。
- ・ほとんどの題材ページを見開きで構成し、作品例を大きく掲載してあり、実際の授業で撮影された情景や作品の写真から、授業の様子がイメージしやすくなっている。
- ・クレヨンのマークで示された「形や色のチーロさん」では、発想や構想が広がりやすいときのヒントや工夫するときの手立て、鑑賞する時の視点等が吹き出しに書かれている。また、巻末には、子どもたちの「発想や構想」「創造的な技能」を支える資料として、6ページに渡り「使ってみよう材料と用具」が掲載されている。「きをつけよう」や「かたづけ」マークは各題材のページにも適宜示されており、安全指導や環境への配慮がみられる。
- ・各巻50、51ページの「ぞうけいのもり」や3・4年上巻から掲載されている「図画工作の広がり」では、身近なものの造形的な面白さや造形活動における地域や社会とのつながりを感じさせ、関心・意欲を高めることができる。

委員長 質疑・協議をお願いします。

委員 開隆堂は作品が明るく夢が広がり、自由奔放でわくわくする。日本文教出版社は最後の道具の使い方はわかりやすい。

委員 開隆堂は作品が豊富で、子どもの発想が広がる。

委員 日本文教出版は説明しすぎている。発想という観点から開隆堂がよい。

委員 言語活動の観点から、鑑賞の部分で開隆堂は、ポイントを押さえているのでわかりやすい。日本文教出版は説明になっている。目次も開隆堂はわかりやすい。

委員長 では、開隆堂ということによいか。

委 員 (よい)

委員長 家庭をお願いする

指導主事 家庭について説明する。

東京書籍

- ・学習のめあてについて、全ての単元で、このように、「1 見つめよう」「2 計画しよう・活動しよう」「3 生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3段階で学習のめあてを示し、学習内容が確実に身に付くように工夫されている。
- ・「いつも確かめよう」では、基礎・基本的な知識や技能の大切なポイントをまとめており、必要な時にいつでも確認できるようになっている。特に、右利き用・左利き用の実習の作業場面を写真で大きく載せていることも一つの特徴である。
- ・内容では、今日的な様々な課題に対応するための「防災教育」、「伝統文化」、「安全指導」などの特集やマークが掲載されている。
- ・全体を通して、色覚の特性にかかわらず、見やすい色づかいや読みやすいふりがななど、ユニバーサルデザインを意識しており、大切な言葉が太字ゴシック体で示してありわかりやすくなっている。

開隆堂

- ・表紙を開くと、ここから3ページまではこれからの学習のガイダンスとなっている。このガイダンスにより2年間の学習の見通しが確認でき、児童が意欲的に取り組めるよう工夫がなされている。
- ・「学習のめあて」に対応させて「ふり返ろう、生かそう」で学習の振り返りをするよう工夫されている。また、「できたかな」で自己評価をすることにより、基礎的・基本的な知識や技能の定着が確認できるようになっている。全単元がこのような形で構成されている。
- ・特に、実習・製作では、基本的な知識のみならず、意欲的に取り組めるように手順や作品例が豊富に示されており、発展的な学習を楽しめるようになっている。実習などの流れが見開きページで横に流れるように、わかりやすく提示されている。また、児童の理解を助けるものとして、全体を通してイラストや写真が多数掲載されている。

委員長 質疑・協議をお願いする。

委 員 内容の違いはあまり感じられないが、開隆堂の方が見やすい。

委 員 開隆堂は、ミシンの帯で上糸と下糸の写真がわかりやすい。また、見開きで左から右にすべてが見えるので、わかりやすい。実際に見ているものと写真が同じなので、子どもたちもわかりやすい。

委員長 家庭科は学校により、専科の先生が教えると学校とそうでない学校がある

ので、その辺どうか。

委員 中学校に上がってきたときに小学校によりバラつきが大きい。開隆堂は見やすく、見通しを持って学ぶ、振り返りチェックして次のステップに進むなど、5・6年生にわかりやすくまとめられている。

委員 ミシンなどは回数をやることが必要で、開隆堂は5年生の早い時期にあり、東京書籍は5年生の終わりのほうにあるので、扱う時間数が減ってくる。食育も5年生でやったことを6年生で深めていく方がよい。開隆堂の構成はそうになっている。開隆堂の方がよい。

委員長 開隆堂ということではいいか。

委員 (よい)

委員長 保健をお願いします。

指導主事 保健について説明する。

東京書籍

- ・どの単元も冒頭に「学習課題」が明示されていて、児童の主体的な学習を促す紙面構成になっている。また、「学習課題」ページには身近な生活場面をもとに、イラストや記入欄が示され、児童が興味をもちやすい内容になっている。
- ・「外で遊ぶときに注意すること」、「犯罪被害の防止」、「自然災害によるけがの防止」などの項目では、資料や画像が豊富である。児童を取り巻く社会に合わせた単元設定がなされていて、防災・安全に関する学習活動の充実が図られている。
- ・「広げよう」では、学習した内容を広げ、学習を深められるように資料が提示されている。「つなげよう」では既習内容や他教科との関連が視覚的に分かるよう掲載されている。相互に知識を補完しながら系統的な理解や知識の定着が図られるよう工夫されている。
- ・児童の考えを深まりやすくするために、記入欄が多い構成となっている。また、この記入欄は発達の段階に応じて、適切な大きさが設定されている。

大日本図書

- ・第4学年の児童自身の身長の変化や食生活を調べる学習では、シールが採用されている。児童の学習意欲を高めるとともに、学習が効率的に展開できるように工夫されている。
- ・各章の始まりでは、日常の生活場面での問題に関するゲームが提示され、児童がその章の学習への興味・関心を高める工夫がなされている。それぞれのゲームは巻末に正答が掲載されている。
- ・「話し合ってみよう」が多く設定されているため、児童同士が考えを交換し、言語活動を増やすことができる。こうした活動の中で、児童の能動的な思考や判断の活動を促すことが期待できる。
- ・学習の参考や手助けとなるイラスト、写真、図表は各学年の発達の段階に適してい

る。特に「育ちゆく体とわたし」では指導する側にとっても活動しやすい構成になっている。

文教社

- ・今日的な健康、安全の問題、事故などの事例や安全対策が積極的に掲載されていて、単元「交通事故の防止」や「地域での安全」では、イラストや地図で危険な場所が示され、児童にとってわかりやすく説明されている。
- ・課題追究に必要な写真、イラスト、グラフなどの資料が多く使われていて、児童の学習意欲を高める工夫がされている。また、「病気の予防」の単元ではイメージマップが取り入れられ、児童の考えを引き出しやすくしている。
- ・脚注の「つぶやきくん」の欄では、学習内容と既習内容との関連や発展的な情報、児童へのつぶやき等が記載され、児童の興味・関心が高まるように工夫されている。
- ・「学習課題」「学習資料」「キャラクター同士会話しながらの学習」などの内容により、児童一人ひとりが基礎的・基本的な知識を習得し、習得した知識を活用し、主体的に課題解決学習に取り組めるように構成されている。

光文書院

- ・健康・安全にかかわる社会的な課題が取り上げられている。「けがの予防」では「犯罪被害の防止」や「地震や津波から身を守る！」などの資料が豊富にある。特に「津波から身を守る」では率先避難者の重要性が記載されている。
- ・「戻るマーク」、「他教科・多学年との関連マーク」「ひと言マーク」など各種マークにより、既習内容と関連される項目や他教科との関連などが分類され、児童の理解や学習意欲を高める工夫がされている。
- ・手型寒天培地による手の汚れの実験、カビ・ダニ、たばこでよごれた肺、酒を飲み続けて悪くなった肝臓、麻薬（MDMA）など資料写真が充実していて、視覚による理解を図っている。
- ・各内容の分量と配分は適切で、イラスト、図表、写真等が見やすく掲載されている。また、視覚的に理解しやすいようにグラフが効果的に配置され、大切な語句は非常に大きく表記されている。

学研教育みらい

- ・「手のほねの変化」「脳の活動の様子」「がん細胞をこうげきする白血球の仲間」などの「かがくの目」は見えないものを見える化した資料である。これらは児童興味・関心を高め、科学的な理解に結び付けやすくしている。
- ・「考えてみよう」や「話し合ってみよう」など自分の心と向き合う学習のページでは、淡い配色で親しみがもてるイラストが使用され、落ち着いて自分を見つめやすくする工夫がされている。
- ・各章末に「学習のまとめ」が設けられています。「ふり返り」「学びを生かして」「明日につなげる」から構成され、習得の確認、知識の活用を踏まえて、生活行動への活用につなげることができるようになっている。
- ・発展的な学習につなげやすくするために「もっと知りたい・調べたい」が設定されている。探究的な学習が行えるように本文との関連が深く、児童の興味・関心に応えるテーマ、現代的な健康課題や話題が取り上げられている。

委員長 質疑・協議をお願いします。

- 委員 東京書籍は資料がよい。振り返りながらチェックができる。3・4年生で自分の体の成長をイラストと写真が上手に使われていて、よい資料となっている。
- 委員 東京書籍の写真や資料がよい。大日本図書はイラストが多く、やりかたによっては使いやすい。東京書籍の方がよい。
- 委員 大日本図書はかたい。高学年になって意識する前に教えるにはよい資料かと思う。
- 委員 飲酒、喫煙のところは学研がよい。光文は写真が小さい。
- 委員 書き込みスペースは東京書籍、学研教育みらいが十分にある。
- 委員 学研教育みらいのサイズは、道具箱に入らない。東京書籍は使いやすいサイズ。
- 委員 東京書籍の「広げよう」のページが内容を充実させている。子どもたちがこれから思春期を迎えた時の具体的な心配りが取り上げられている。
- 委員 東京書籍も飲酒・薬物・喫煙の怖さを視覚的に写真で見せている。
- 委員長 では、東京書籍と学研教育みらいを挙げることでよいか。
- 委員 (よい)
- 委員長 これですべての種目について終了した。次回は本日の協議をまとめ、報告書を作成することになる。次回に向けて事務局に本日の協議をもとにその取りまとめをお願いしたいがいかがか。
- 委員 (異議なし)
- 委員長 では事務局に報告書の原案を作成していただき、次回はそれをもとに協議を進めることとする。
- 委員長 閉会の言葉
事務局から連絡をお願いします。
- 事務局 本日の資料については事務局で保管する。

第3回 について

事務局から 報告書原案の提示
種目ごとに☆の数と文章表現の確認